

常陸宮殿下とカラス



平成26年5月11日、常陸宮・同妃両殿下は東京のホテルで開催された第68回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」に出席された。式典後は会場に隣接する毛利庭園での自然観察会にもご参加。カラスなどの野鳥やヒナを育てているカルガモの様子などをご覧になった。

愛鳥週間は愛鳥思想を広く国民に普及するため、昭和22年4月に始まり、同25年からは毎年5月10～16日が愛鳥週間として定められた。「全国野鳥保護のつどい」はその中核行事で、昭和36年から（公財）日本鳥類保護連盟などの主催で行われている。常陸宮殿下は同連盟の総裁をお務めで、毎年、各県で開催される行事に臨席されている。

常陸宮殿下もお小さいころから生き物がお好きで、学生時代は友人と生物学関連の話に夢中になっておられたという。大学も理系に進学し、学習院大学理学部化学科ご卒業後、昭和44年から平成13年まで、がん研究会がん研究所の客員研究員として魚やカエルといった動物のがんの病理学を研究されていた。

殿下のご研究は学会からも高い評価を受け、平成11年3月にはドイツのハイデルベルクで行われたドイツがん学会で、外国人初の名誉会員としてスピーチを行われた。平成28年には人間と動物のがん研究・がん治療の発展に尽力されたとして、がん対策バリ憲章大賞を受賞された。

がんに苦しむのは人間も動物も同じ。殿下の笑顔が格別にお優しいのは、分け隔てのないお気持ちにがにじみ出ているからに違いない。

平成26年5月11日、第68回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」で毛利庭園での自然観察会に参加された常陸宮・同妃両殿下。案内役は（公財）日本鳥類保護連盟の専務理事（当時）である室伏友三さん（東京都港区）